

令和6年11月26日

小野市議会議長 高坂純子様

総務文教常任委員会 前田光教

総務文教常任委員会行政視察報告書

先般、実施しました総務文教常任委員会行政視察の結果について、
下記のとおり報告いたします。

記

1 視察・研修実施日

令和6年11月12日（火）

2 視察・研修議員（総務文教常任委員会）

河島信行（委員長） 宮脇健一（副委員長） 掘井ひさ代 前田光教
山本悟朗 高坂純子 小林千津子 川名善三



3 視察・研修先及び内容

滋賀県守山市 「もりやまエコパーク環境センター」
〒524-0216 滋賀県守山市環境学習都市宣言記念公園1番地2
株式会社もりやまエコクリーン TEL 077-599-5077 FAX 077-599-5078

4 調査・研修結果

●滋賀県守山市

人口 85,731人 35,050世帯（令和6年4月1日現在）
面積 55.73km² 人口密度 1,538.3人/km²
財政力指数 0.818 実質公債比率 4.5% 将来負担比率 5.6%（令和4年度）
令和6年度一般会計当初予算 355.3億円

●もりやまエコパーク環境センター

○施設案内

ごみ発電で得られた電気は、施設内で使用し余剰分については売電、また、隣接した交流拠点施設の温水プールに温水供給も行っている。もりやまエコパーク環境センターは、地域の環境保全に最大限の配慮をした運営を行い、熱エネルギーの有効活用を積極的に行っている。

○施設概要

施設規模	熱回収施設 71 t / 24 h (35.5 t / 24 h × 2 炉) リサイクル施設 10.68 t / 5 h
敷地面積	約 2.5 ha
工期	平成30年9月28日～令和3年9月30日
発電出力	1,400 kw (基準ごみ2炉運転時)

70トン級の小規模施設でありながら、高温高圧(4MPa・400℃)の蒸気条件で高い発電効率(17.0%)を達成。タービン排熱を利用し、交流拠点施設の温水プールへの熱供給(熱利用率1.5%)エネルギー回収率(18.5%)=発電効率(17.0%) + 熱利用率(1.5%) 焼却の際に発生する熱エネルギーを利用する、サーマルリサイクルに取り組んでいる。(エネルギーの地産地消)

煙突が目立たなく、景観に配慮した外観デザイン(最上階には琵琶湖を眺望できる展望スペースを設置)、埋設廃棄物対策としてランプウェイを採用、バーチャル炉内体験やパッカー車のトリックアート等を設置し、充実した施設見学の実施。

○建築概要

工場棟	建築面積	5,264.68 m ²
	延床面積	10,631.00 m ²
	構造	鉄骨造・鉄骨鉄筋コンクリート造・鉄筋コンクリート造・6階建
管理棟	建築面積	450.80 m ²
	延床面積	819.00 m ²
	構造	鉄骨造・準耐火建築物・2階建
計量棟	建築面積	153.00 m ²
	延床面積	187.00 m ²
	構造	鉄筋コンクリート造+屋根鉄骨造・1階建
ヤード棟他	建築面積	674.65 m ²
	延床面積	585.60 m ²
	構造	鉄筋コンクリート造(屋根鉄骨造)・1階建

○熱回収施設

受入供給設備	ピットアンドクレーン方式
燃焼設備	全連続燃焼式ストーカ炉
燃焼ガス冷却設備	廃熱ボイラ方式
排ガス処理設備	減温塔・ろ過式集じん器・脱硝反応塔
灰出設備	焼却灰・ピット貯留
飛灰	薬剤処理後ピット貯留
余熱利用設備	蒸気タービン発電設備 1,400kW（基準ごみ2炉運転時）

○リサイクル施設

受入供給設備	受入ヤード・受入ホッパ
破碎設備	低速回転式破碎機・高速回転式破碎機
選別設備	磁選機・粒度選別機・風力選別機・アルミ選別機

●もりやまエコパーク交流拠点施設

◎「環境」、「健康」、「交流」をはぐくむ活動拠点

もりやまエコパーク交流拠点施設は、地域の新たな魅力づくりに大きく貢献する施設にするとともに、多くの市民が集い、憩うことで、市民に愛される施設として、「環境」、「健康」、「交流」をはぐくむ活動拠点となるよう整備をしている。

当該施設は、多くの方が来訪し、高齢者の生きがいつくり、健康増進はもとより、子どもたちの健全な育成を図り、新たな交流が生まれる施設を目指している。

○環境学習ゾーン

環境学習室 99.36㎡（定員63名）	工作室 91.03㎡（定員54名）
交流・学習コーナー 309.58㎡	キッチンエリア 47.58㎡

○健康増進ゾーン

温水プール 1,224.64㎡	プール 25m×幅16.5m（8レーン） 412.5㎡
（水深1.1mまたは1.35m）	キッズプール 38㎡（水深0.4m）
採暖室 6.75㎡	トレーニングエリア 53.1㎡

○交流促進ゾーン

多目的ホール 579.9㎡	主な利用種目（卓球・バドミントン・フットサル）
温浴施設 154.32㎡（定員20名）	畳コーナー 24.91㎡
多目的スペース（屋外）	

○その他

守山市事務所 132.96㎡	リユースステーション 20.66㎡
管理事務室 99.36㎡	駐車場（駐車場97台）

5 所感

今回の視察は、可能な限り周辺整備事業における現状を調査したかったのですが、結果的に焼却施設の説明と見学に時間を要し、延長して「交流拠点施設」の見学を行わせて頂きました。

そこで本題ですが、守山市の焼却施設は、単独での設置となっており、小野加東加西環境施設とは根本的に異なり、また、現在の施設設置場所も旧焼却施設の隣接地での建設であり、加えて古くからゴミ処理（最終処分地）として活用していた守山市所有の位置にあります。そのため、埋設ゴミの関係で掘り返し等には規制もあったそうですが、基本的には従来からの敷地内建設でありました。

そのような状況が整っている土地であっても、焼却施設新設に当たっては地元4地区との協議等で、様々な意見や要望が出されたそうです。現在も道路等は要望に対しての未着手な部分も多々あり、単独設置だからできる事と感じたところです。

広域での新炉建設について、滋賀県からの広域での取り組みを示唆する動きや、隣接市（野洲市）等との合同処理を検討したものの、結果として其々の自治体で単独処理の判断となっており、ゴミ処理のような施設が広域で取り組むハードルの高さを改めて実感したところであり、小野市、加東市、加西市の三市による協議で新炉建設地周辺との協議を行うには、気を遣う必要性を痛感します。

今後、小野市が欲張っても前に進まず、小野市・加東市・加西市が共通の認識を持ち、協力しあって小野加東加西環境施設事務組合に関わっていきたいと感じます。

焼却施設ですが、守山市のゴミ焼却炉は1トン1億円と言われていた時代に発注し、約72億円の負担で完成、周辺施設については、公園整備等々、未着手の部分もあり約10億～20億円を試算しているそうです。現在は、1トン2億円とも言われ、財源の確保も併せて考えていかないといけない状況であり、将来を見据えてしっかりとした判断をしていきたいものです。

余談ですが、そもそも合併を経た市としての自治体の人口要件3万人以上で認定されていますが、本来、人口は5万人以上が市としての要件であり、多く語られている行政機能を発揮、効率化できるのは、人口20万人超と聞き及びます。

それらを考えると、現状はどうしようもないことではありますが、本音として北播磨地域、即ち20万人のゴミを一体となって処理施設の新設、管理運営を行うことが望ましいものであると現時点でも感じています。